



エコ・ファーストの約束

—環境先進企業としての地球環境保全の取り組み—

2023年4月5日

環境大臣 西村 明宏 殿

ローム株式会社

代表取締役社長 松本 功

ロームグループは、自然環境と経済活動のバランスが取れた調和した状態を目指し、環境配慮製品や生産活動における環境負荷の削減、資源の有効活用等の取り組みを通して、地球環境の保全に取り組んでまいります。

1 「気候変動」対策を持続可能性の実効性を図る重要な指標とし、事業活動により発生する2050年度のCO₂排出量実質"ゼロ"を目指します。

- 温室効果ガス排出量を2050年にゼロにすることを旨とし、2030年度に2018年度実績より50.5%以上削減します。
 - ①目標達成に向けて、高効率設備や省エネ設備の導入を推進します。
 - ②目標達成に向けて、再生可能エネルギーの導入量を段階的に引き上げます。
 - ③サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量の把握・管理に係る取り組みに関し、情報を公開します。
- 温室効果ガス（GHG）排出量原単位を2030年度に2018年度より、45%以上削減します。
- 環境配慮型製品の開発割合100%を維持します。
- 国際的なイニシアティブに積極的に参画することで、環境課題の解決に取り組めます。
 - ①TCFDの提言に沿った情報開示に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。
 - ②SBTi「1.5℃水準」のコミットメントに則り、環境負荷削減に努めます。
 - ③RE100のコミットメントに則り、再生可能エネルギーの導入量を段階的に引き上げます。
- 環境マネジメントシステムの運用を通じて、環境配慮型経営に取り組めます。

2 事業活動が環境に与える影響の大きさを認識し、一連の事業活動を通して限りある資源の無駄をなくすため、資源循環の最大化に取り組めます。

- 国内連結でゼロエミッションを維持し、再生資源化率を2030年度に海外連結で97%以上、国内海外連結でゼロエミッションを目指します。
 - ①事務所内の分別ルールを徹底し、リサイクル・資源の有効利用を図ります。
 - ②資源循環の最大化のため廃酸・汚泥のセメント原料化・路盤材化などのリサイクルのほか、独自の取り組みについて検討を進めます。
- 前工程工場の廃棄物排出量原単位を2030年度に2019年度実績より10%以上削減します。
- 後工程工場の廃棄物排出量原単位を2030年度に2019年度実績より20%以上削減します。
- 水の回収・再利用率を2030年度に2019年度実績より5.5%以上向上させます。

3 地球の生物多様性が生み出す自然の恵みを大切に、地球環境をより良い状態で次世代に引継ぎます。

- ロームグループ全体で、生物多様性保全の活動を実施し、次世代に引継ぐ地球環境づくりを推進します。
- 2030年度の中期目標を実現するため、ビオトープエリアを活用し、ローム本社の緑地価値の向上に繋がる定量的な目標の制定検討を進めます。
- ロームグループ全体で、生態系を守るための清掃活動や植林活動を推進します。
- 事業拠点を有する自治体と連携し、生物多様性保全、地域貢献活動を拡充します。
- 社員への階層別教育及び学生を対象とした環境学習授業を実施し、環境保全に関わる啓蒙活動を推進します。

ローム株式会社は、上記取り組みの進捗状況を確認し、環境省へ報告するとともに、ホームページや統合報告書などで定期的に公表します。



Electronics for the Future